



スポーツイベントと 持続可能性

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会 (スポーツ健康科学部3年)/SUSPON Youth部会 亀石 弥都

実は誰でも取り組めるSDGs スポーツが創出する「共感」を行動変容につなげる

スポーツを通じて SDGsを身近なものに

いよいよ今年夏、東京五輪・パラリンピックが開催されます。昨年のラグビーW杯、来年の関西ワールドマスターズゲームズ(中高齢者のための国際総合競技大会)と、日本は世界規模のスポーツイベントで注目される3年間“ゴールデン・スポーツイヤーズ”の2年目に入ります。

世界中の視線が日本に集まる中、日本から世界に何かを発信していくことは非常に重要なことです。そうした中、SUSPON(持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク) Youth部会に所属する立命館大学 Sustainable Week 実行委員会の取り組みを紹介したいと思います。

私たちは2017年から、SDGs(持続可能な開発目標)体験型イベント「Sustainable Week」を開催しています。大学キャンパスを小さな地球に見立て、身近な社会課題の解決を提案するというコンセプトのもと、多くの学生団体やサークル、自治体、企業と連携して様々な取り組みを行っています。

2017、18年にSDGsの啓発を行った際、「SDGsを地域の方にどうすれば分かりやすく感じてもらい、行動変容につなげることができるのか」という課題が浮かび上がりました。行動変容につなげるための第一歩として浮かんだのは「共感」というキーワードでした。共感を得るための手段として、私たちは「スポーツ」を選びました。

スポーツは「する・みる・ささえる」という3つの関わり方があります。さらに、それぞれの関わり方には様々な分野があります。例えば、ア

スリートを栄養面からささえるものとして「食」の分野があるほか、生活の中で自然と運動をしたくなるテクノロジー開発といった「研究」「技術」の分野、スポーツ競技を盛り上げるための「音楽」による演出などがあり、スポーツの周辺には私たちが身近に感じる分野も多くあります。

様々な分野が関わるスポーツというコンテンツを使ってSDGsを身近に感じ、参加者の行動変容につなげる。そうしたコンセプトのもと、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市)で昨年5月に開催し



写真1 昨年5月、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催した「エキスポーツ 2019」の様子
=滋賀県草津市



写真2 エクスポート2019で大人気だった車いすバスケットボール



写真3 エクスポート2019での食セミナーの様子

たのが「エクスポート2019ーくさつ・しがSDGs交流大会」(写真1)です。同大学研究部と共催し、アシックスジャパン、大塚製薬といった大手企業にも協賛していただき、イベント当日は313人の来場がありました。

エクスポート当日の様子

エクスポート2019では、バスケットボール、卓球、バドミントンを大学のサークルが、車いすバスケットボール(写真2)を障がい者福祉センターやNPOの車いすバスケットボールチームがそれぞれ企画運営を担当しました。中でも車いすバスケットボールは普段なかなか体験できないこともあってか、大人気となりました。

また、大阪、京都、奈良、三重の2府2県で運動文化総合施設を運営する東大阪スタジアムが企画したコーディネーショントレーニング、滋賀県が企画したパラスポーツ体験コーナー(ホッケー、ストラックアウト)も多くの子供たちに体験していただき、成長期の体の動かし方や、スポーツは誰でも楽しめることを伝えました。

さらに、立命館大学大学院による研究デバイス体験や、スポーツ栄養学を専門とする教授の食セミナー(写真3)を開催し、栄養学にとどまらず、地産地消やエシカル消費、生産と流通の観点からも講演がありました。

身近なところでは、NPOサークルによるバランスボール体験会や、東大阪スタジアムによるヨガ体験会には、運動不足気味のお母さんたちが多く参加していました。会場の外では、運搬ロボットのデモ走行や音楽ライブ、ハラル対応のチキンカレー販売、餅つき体験などもあり、イベントを盛り上げました。

まずはやってみよう！

エクスポート2019を通じ様々な成果が得られましたが、中でも特筆すべきなのは、高等教育機関である大学ならではの発信と、連携による多様なイベント創出です。また、子供から高齢者まで全世代の方々に参加いただき、触れ合えたことは大きな財産になったと感じています。日曜日に開催したこともあり、家族での参加も多かったです。参加者へのアンケート結果から、多くの方々に

楽しみながらSDGsのことや自分ができるSDGs Actionを考えていただくことができたと思っています。

SDGsは抽象的で何をしたらいいかわからないという人が多くいる中、伝えたいのは、自分ができることをやる、SDGsを達成するための手段に正解はない、ということです。環境問題は、世界全体で解決していかなくてはいけない喫緊の課題です。あるスポーツ選手が「僕らはみんな、それぞれ意見を持っている。どちらが正しくて、どちらが間違っているかではなく、自分は何を信じ、どう選択するかが大切」と話していました。筆者もその通りだと思います。正しいとか、間違っているとか批評している“余裕”は、環境問題にはありません。とにかく、まずはやってみる。そのような意識を一人ひとりが持つことで、世界は少しずつ良くなっていく可能性があると思っています。

私たち立命館大学 Sustainable Week 実行委員会ではこれからも、様々な角度から参加者の心に訴えるような企画を打ち出し、多くの人の行動変容につなげていくことができればと考えています。E